

●鑛業法(抄録)(明治三十八年三月
法律第四十五號)

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母
尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、
砒鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在
ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營
利ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス(四〇年法律第
四一號追加)

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコト
ヲ得ス

第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス
本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトヌル者、鑛業出願

人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第二章 鑛業權

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス
自己ノ採掘シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ採掘シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(四四年法律第九號追加)

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘鑛ニテハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス(四三年法律第一〇號改正)

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ヲ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條 第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若クハ變更ノ登録ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登録ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ
前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百

分ノ三、採掘鑛區稅百分ノ七以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得（四三年法律第一〇號改正）

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區竝間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第八章 罰則

第一百條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ之ハ免レムトシタル者ハ其ノ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第一百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第一百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ

其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第一百五條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第一百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第一百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第一百三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第一百四條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

附則（明治四三年三月法律第一〇號）

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス、非常特別稅法中鑛區稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 明治四十四年三月法律第九號

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●砂鑛區稅法(明治四十四年三月法律第九號)

第一條 砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂區鑛稅ヲ課ス

河床

砂鑛區域一町毎ニ

金三十錢

河床ニ非サルモノ

砂鑛區域一千坪毎ニ

金三十錢

第二條 砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條 北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附 則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中砂金採取地稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●酒造稅法(明治二十九年三月法律第二八號)

第一條ノ一 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス(三十四年法律第七號改正)

第一條ノ二 此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ(三十八年法律第三號追加)

左ニ掲クルモノハ清酒ト看做ス

一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二 清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

第一條ノ三 此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ(同上)

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵

セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四 此ノ税法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ(同上)

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五 此ノ税法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ(同上)

左ニ掲クルモノハ味淋ト看做ス(大正九年法律第一四號改正)

一 前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二 味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕濾シタルモノ

第一條ノ六 此ノ税法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸溜シタルモノヲ謂フ(同上)

左ニ掲クル物品ヲ原料トシテ蒸溜シタルモノハ燒酎ト看做ス

一 清酒

二 濁酒

三 味淋粕

四 米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、甘藷若ハ味淋粕ト麴及水トヲ原料トシ

醱酵セシメ又ハ酒精母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ(大正九年法律第一四號改正)

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十日一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス(四年法律第一八號、大正七年法律六號及大正九年法律第一四號改正)

第一種 酒精分二十三日以下ノ濁酒 一石ニ付 三十圓

第二種 酒精分二十三日以下ノ清酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋、燒酎 一石ニ付 三十三圓

第三種 酒精分三十度ヲ超ユ四十五度以下ノ燒酎

一石ニ付前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル 一圓二十五錢ヲ加ヘタル金額

第四種 酒精分二十三日ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五日ヲ超ユル燒酎

一石ニ付 酒精分一度毎ニ一圓五十錢

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル
〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條 政府ハ一酒造年度間清酒ハ三百石濁酒ハ百石焼酎ハ十石以上ヲ製造スル者ニ
非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ
他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス(三四年法律第七號及大正七年法律第六號改正)

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其
ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅
ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテニ
査定シタルモノト看做シ濁酒ニ在リテハ一石ニ付三十圓、清酒又ハ焼酎ニ在リテハ
一石ニ付三十三圓ノ割合ノ稅率ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス(大正九年法律第一四號改
正)

第六條 造石稅ノ納期ヲ分チ左ノ四期トス(三一年法律第二三號改正)

第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

第二期 前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一
第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

同上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條 第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納
稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ハラズ造
石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得(四一年法律第一八號改正)

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔
保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得(同上)

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ査定
石數ノ百分ノ七以内味淋ハ査定石數ノ百分ノ三以内焼酎ハ査定石數ノ百分ノ二以内
ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得(大正七年法律第六號大正九年法律一四號
及十一年法律一六號改正)

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第八條ノ二 同一製造場内ニ於テ酒類ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒類ニハ造石税ヲ課セス(大正九年法律第一四號追加)

前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス(同上)

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラルルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類前項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石税ヲ課ス(大正九年法律第一四號追加)

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石税ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條

左ノ酒類ハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス(三二年法律第二三號改正)

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ(三八年法律第三號改正)

四、容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條

酒類ヲ製造スル者ハ納税保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得(三一年法律第二三號及大正九年法律第一四號改正)

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタル

トキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得
酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石税ニ關シテ滯納處
分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ
得
前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ増減ヲ爲サ
ス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ

二 納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三 造石税ヲ前納シタルトキ

四 酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ擔保シタルトキ(同上)

第十五條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ
保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保
存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵收スヘキ税金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ム

ルトキハ同時ニ他ノ財産ニ就キ滯納處分ノ執行ヲナスコトヲ妨ケス(同上)

第十六條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ
擔保シタル酒造組合ノ各組員ハ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス(同上)

第十七條 酒類ヲ製造スル者納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓
渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ
消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收税官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ
製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器
械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(三四年法律第七號改正)

第二十條 (三八年法律第三號削除)

第二十一條 (同上)

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタルモノハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金
ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス(四一年法律第一八號
改正)

前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ラス其ノ造石税ヲ徵收ス(同上)

第二十三條 (同上削除)

第二十三條ノ二 (同上)

第二十三條ノ三 (三四年法律第七號削除)

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(三四年法律第七號改正)

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(同上)

第二十六條 納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(同上)

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

第二十九條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

第三十條 酒類ヲ製造スル者收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス(同上)

第三十三條 第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒類ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得(大正七年法律第六號改正)

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス(四一年法律第一八號追加)

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石税完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規定ニ從フモノトス(同上)

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ税法ニ依リ造石税ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石税ヲ標準トシテ府縣税若ハ地方税及市町村税其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課税スルコトヲ得ス(三一年法律第二三號改正)

第三十五條ノ二 此ノ税法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ税法ト同一ノ税率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ税法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス(四一年法律第一八號追加)

附 則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ

一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限り總テ無税トス

第三十七條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前検査済石數ニ係ル造石税ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

附 則(明治三十一年十二月法律第二三號)

此ノ法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行シ同日以後製成ニ係ル酒類ニハ其ノ製造着手ノ時期ニ拘ラス此ノ法律ヲ適用ス

此ノ法律施行前既ニ免許ヲ受ケタル者ニハ三十一年度及三十二年度分ニ限り第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

附 則(明治三十四年三月法律第七號)

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ舊税率ヲ適用ス

附 則(明治三十八年一月法律第三號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治四一年三月法律第一八號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十八條削除ニ關スル規定ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中酒造稅法ニ依ル酒類及沖繩縣酒類出港稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則(大正七年三月法律第六號)

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒類製造ノ免許ヲ受ケ本法施行ノ際現ニ酒類製造者タルモノニ限り第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒類ヲ製造セサルモノニ付テハ第三十三條第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則(大正九年七月法律第一四號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ大正九年九月三十日迄仍從前ノ例ニ依ル

附 則(大正一一年三月法律第一六號)

●酒造稅法施行規則(明治二十九年八月勅令)
第二百八十七號

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ(三四年勅令第一六四號改正、同三八年勅令第三號ヲ以テ第二項削除)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(同上勅令ヲ以テ追加)

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
(三四年勅令第一六四號但書追加同三五年勅令第二五三號改正)

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス(三五年勅令第二五三號改正)

第五條 酒類製造主ハ每酒造年度ニ於テ製造スヘキ每酒類ノ見込造石數、製造着手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ(三一年勅令第三六二號但書追加同三五年勅令第二五三號改正)

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
(三四年勅令第一六四號改正)

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造税法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二 酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ(三八年勅令第三號追加)

第六條ノ三 酒類製造主其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(同上)

第六條ノ四 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造税法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 酒造税法第八條第二項但書ニ依リ控除スル滓引減量及貯藏減量ハ清酒ニ在リ

テハ査定石數ノ百分ノ七、味淋ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ三、燒酎ニ在リテハ査定石數ノ百分ノ二トス(大正七年勅令第三二號及大正一一年勅令第四九號ヲ以テ改正) 犯則ニ係ル清酒又ハ味淋ニ付テハ前項ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除セス(三四年勅令第一六四號、大正七年勅令第三二號大正九年勅令第二二九號改正)

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪、酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ(四一年勅令第三八號改正)

第十一條 (大正九年勅令第二二九號ヲ以テ削除)

第十二條 (同上)

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ着手前ニ其ノ數量時期等ヲ稅務署長ニ申告スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪又ハ酒造税法第八條ニ依リ檢定シタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ(三五年勅令第二五三號及大正九年勅令第二二九號改正)

第十七條 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄、亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

第十八條 酒造税法第十二條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ(三一年勅令第三六二號及三五年勅令第二五三號改正) 第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎ノ製造用ニ供セムトスルモノハ稅金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ(三四年勅令第六四號改正)

第二十條 酒類製造主ハ酒類製造着手前ニ保證物ヲ提出スヘシ但シ酒造税法第十三條第一項但書ニ依リ造石數査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造着手

手前ニ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ(三一年勅令第三六二號、同三五年勅令第二五三號改正)

保證物ヲ増補スルトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ
酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル(大正九年勅令第五八號改正)

- 一 金錢
- 二 國債
- 三 土地
- 四 火災保險ニ附シタル建物

第二十二條 保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル(三一年勅令第三六二號、三五年勅令第二五三號及四一年勅令第三八號改正)

第二十三條 金殘又ハ國債證券ヲ保證物トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正九年勅令第五八二號改正)
登錄國債ヲ保證物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄

稅務署ニ提出スヘシ(同上)

乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ(同上)

土地又ハ建物ヲ保證物トシテ提供スルトキハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ(同上)

第二十四條 保證物トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務署長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ(三五年勅令第二五三號改正、四一年勅令第三八號及大正九年勅令第五八二號改正)

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得
第二十六條 納稅保證人ハ稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル(三五年勅令第二五三號改正)

第二十七條 稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルト

キハ之ヲ變更セシムルコトヲ得(三五年勅令第二五三號及四一年勅令第三八號改正)

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得(三五年勅令第二五三號改正)

第三十條 酒類製造主ハ稅務署長ニ申出テ保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得(同上)

第三十一條 酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ稅金ヲ納メシムヘシ

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍稅金ニ不足アルトキハ保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ(三一年勅令第三六二號改正)

第三十二條 同一ノ製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ醸造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

正)

第三十三條 稅務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得(同上)

第三十四條 收稅官吏ハ隨時酒類製造場又ハ酒類販賣場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ(三四年勅令第六四號改正)

第三十五條 收稅官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中之ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收稅官吏ハ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトヲ得(三八年勅令第三號改正)

收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料用酒類ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得(同上)

第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 收稅官吏カ必要ト認メテ酒造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ(同上)

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ竝ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(同上)

- 一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ
- 二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ
- 三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ
- 四 仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ
- 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
- 六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ

第七 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第四十一條 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ

受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

酒類製造主ハ前項検査後ニ非サレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十二條ノ二 酒造税法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醪其ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ(四一年勅令第三八號追加)

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造り込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條ノ二 收稅官吏ハ酒類製造主及販賣主ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス(三八年勅令第三號追加)

附 則

第四十四條 酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ

受ケタル者ニシテ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面目録ヲ添ヘ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

第四十五條 酒造税法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ稅務署長ニ申請スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

附 則(三一年一二月勅令第三六二號)

本令ハ明治三十一年法律第二十三號實施ノ日ヨリ施行ス

酒造税法第十三條ニ依リ増補スヘキ保證物ハ明治三十二年一月一日以後製成スヘキ酒類ノ見込石數ニ依リ提供スヘシ

附 則(三四年八月勅令第一六四號)

本令ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(三五年一二月勅令第二五三號)

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(三八年一月勅令第三號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(四一年三月勅令第三八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正七年三月勅令第三二號)

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製成シタル清酒又ハ味淋ニ付テハ仍從前ノ依ニ依ル

附 則(大正九年七月勅令第二二九號)

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ檢査シタル原料用酒類ノ造石數査定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則(大正九年十二月勅令第五八二號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ効力ヲ有ス

附 則(大正一一年三月勅令第四九號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●酒母、醪及麴取締法(明治三十七年十二月)
(法律第七號)

第一條 本法ハ酒造税法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ス

第二條 酒母、醪又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者及麴ノ請賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒母醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第四條 收税官吏ハ酒母、醪若ハ麴ノ製造場又ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴其ノ原料製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收税官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第五條 收税官吏ハ運搬中ニ在ル酒母、醪又ハ麴ヲ検査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第六條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止スルモ製造場内ニ酒母、醱、麴、製造用容器、器具、又ハ器械ノ現存スル間ハ收稅官吏ハ其ノ製造場ニ臨ミ建築物又ハ其ノ現在品ヲ檢査シ又ハ之ニ封印ヲ施スコトヲ得

第七條 醱ハ讓渡シ質入シ飲料トシテ消費シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外へ移出スルコトヲ得ス

第八條 酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡スノ外讓渡シ又ハ質入スルコトヲ得ス

酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡シタル場合ノ外收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外へ移出スルコトヲ得ス

第九條 免許ヲ受ケスシテ酒母、醱若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ第七條若ハ第八條ニ違反シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒母、醱又ハ麴及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス(四一年法律第二六號改正)

前項ノ酒母、醱ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス(同上)

第十條 酒母、醱又ハ麴ノ檢査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者八十圓以上二百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第十一條 酒母醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者酒母、醱又ハ麴ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十四條 酒母、醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 酒母、醱若ハ麴ノ請賣者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタ

ルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

第十七條 酒母醪又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第十八條 第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ酒母、醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十八條ノ二 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒母、醪又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒母醪又ハ麴及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス(四一年法律第二二號追加)

附 則

第十九條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本法施行前酒造稅法第二十條ニ依リ酒母又ハ醪製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 本法施行前ヨリ麴ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後十五日以内ニ本法ニ依リ免許ヲ受ケヘシ

前項ノ期間内ハ従前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條 (四一年法律第二二號ヲ以テ削除)

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス(四一年三月法律第二六號附則)

●酒母、醪及麴取締法施行規則(明治三十七年十二月勅令第七號)

第一條 酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造セムトスル者及販賣ノ爲ニ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒母醪又ハ麴製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

- 一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ

但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒母、醪及麴取締法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 酒母、醪又ハ麴ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ酒母、醪又ハ麴製造場ノ圖面又ハ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目録ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必

要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ檢定前使用スヘカラサルコトヲ命シタルトキハ製造者ハ製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 酒母、醪又ハ麴製造者ハ毎年十二月中ニ翌年製造スヘキ見込石數、製造著手ノ時期及製造方法ヲ記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ申告スヘシ

酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第七條 酒母、醪又ハ麴ノ製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒母醪又ハ麴ノ製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母醪又ハ麴製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意書ヲ添附スヘシ

第八條 酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅

務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ第七條第二項ニ依リ製造業ノ引繼ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十條 收稅官吏ハ隨時酒母、醱又ハ麴ノ製造場若ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醱又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

收稅官吏監督上必要ト認メタル場合ニ於テ製造者ヨリ前項ノ物件ニ封印以外ノ適當ナル方法ヲ施サムコトヲ申出テタルトキハ之ヲ承認スルコトヲ得

第十一條 收稅官吏カ必要ト認メテ酒母、醱、麴又ハ其ノ原料品ヲ指定シ其ノ讓渡、質入、消費又ハ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醱又ハ麴ノ製造者ハ其ノ検査ヲ受クヘシ

第十二條 酒母ヲ買入レムトスル者ハ其ノ住所、氏名、又ハ名稱、酒母ノ數量、用途及買入先ヲ記シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出シ酒母買入認許證ノ交付ヲ請求スヘシ

第十三條 酒母製造者ハ酒母買入認許證ト引換ニ非サレハ酒母ヲ讓渡スコトヲ得ス酒母製造者ハ前項ノ買入認許證ヲ以テ酒母ノ移出ヲ收稅官吏ニ證明スヘシ

第十四條 酒母ヲ麴ニ混和シタルモノハ酒母ト看做ス

第十五條 酒母、醱又ハ麴製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル酒母、醱又ハ麴ノ數量及其ノ製造ノ日
- 四 酒母ヲ麴ニ混和シタルトキハ其ノ酒母及麴ノ數量、其ノ混成數量及其ノ混和ノ日
- 五 使用又ハ他ニ引渡シタル酒母、醱若ハ麴ノ數量及使用又ハ引渡ノ日、引渡シタルモノノ價額及引渡先

第十六條 麴請賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル麴ノ數量、價額引取ノ日及引取先

二 販賣シタル麴ノ數量、價額販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十七條 收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ酒母醱又ハ麴ノ製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條 酒母、醱及麴取締法第十六條ノ施行ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規

則ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
酒母、醱及麴取締法第二十一條ニ依リ免許ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ免許
申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ第二條ヲ適用セス

● 酒精及酒精含有飲料稅法(明治三十四年三月
法律第八號)

第一條 酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス

第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精
ノ容量一箇毎ニ一圓五十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ
付三十五圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス(四一年法律第一九號、大正七年法律第七號及大正九
年法律第一五號改正)

第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏檢溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比
重ヲ有スル酒精トス

第三條ノ二 本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ
(三八年法律第四號追加)

左ニ掲タルモノハ葡萄酒ト看做ス

- 一 葡萄ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ
醱酵セシメタルモノ但シ葡萄ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此
ノ限ニ在ラス

二 葡萄ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡萄ノ汁液ヲ純炭酸石灰ヲ以テ除
キシ醱酵セシメタルモノ

三 葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以内ノ酒
精ヲ混和シタルモノ

第三條ノ三 本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタ
ルモノヲ謂フ(同上)

葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又ハ其ノ酸ヲ
稀釋シ醱酵セシメタルモノハ果實酒ト看做ス

第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)ニハ本法ヲ適用セス(同上)

第五條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ
受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條ノ二 政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數酒精ニ在リテハ
五十石酒精ヲ含有スル飲料ニ在リテハ十石以上ニ非サレハ製造ノ免許ヲ與ヘス(四
一年法律第一九號追加)

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ

爲サザリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ説明スルニ非サレハ制
限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セザリシ石數ニ對スル造石稅ハ一石三
十五圓ノ割合ニ依ル(大正七年法律第七號及大正九年法律第一五號改正)

第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許
ヲ取消シタルトキハ即納トス(四一年法律第一九號改正)

前條第二項ニ依ル造石稅ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於
テハ取消後三十日以内トス(同上ヲ以テ追加)

第七條 第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消シタル
場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシ
テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得(同上ヲ以テ改正)

第八條 同一製造場内ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ
使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成
ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 製造石數ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シテ之ヲ査定ス

但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス
犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有ス
ル飲料若ハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石税ヲ課ス

第十條 第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ左ノ場合ニ於テハ其
ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石税ヲ課ス

一 他人ニ讓渡サレタルトキ

二 公賣セラレタルトキ

三 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石
税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ
之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造
出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條 收税官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又

ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料、其ノ製造、出入ニ關
スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物
件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石
税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ
容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ズ(同上ヲ以テ改正)

第十六條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其
ノ製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石税五倍ニ相當スル罰金
ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ
構ヘ造石税ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石税五倍ニ相當
スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若
ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキ八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條ノ二 第十六條乃至第十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得(四一年法律第一九號追加、大正七年法律第七號改正)

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十四條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ(同上ヲ以テ改正)

第二十四條ノ二 葡萄酒及果實酒ニハ第五條、第十三條、第十四條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス(三八年法律第四號追)

免許ヲ受ケスシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ノ三 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス(四一年法律第一九號改正)

附 則

第二十五條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊稅率ヲ適用ス

第二十六條 混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製成シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

附 則(明治三十八年一月法律第四號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ葡萄酒ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一箇月以内ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ従前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

附 則(明治四一年三月法律第一九號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第五條ノ二第二項ノ規定ヲ適用セス

非常特別稅法中酒精又ハ酒精含有飲料ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則(大正七年三月法律第七號)

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサルモノニ付テハ第二十三條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則(大正九年七月法律第一五號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●酒精及酒精含有飲料税法施行規則(明治三十四年八月
勅令第一六五號)

第一條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ
其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ(三八年
勅令第四號第二項削除)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免
許ヲ與ヘサルヘシ(三八年勅令第四號追加)

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスル
トキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ
在ラス

二 酒精及酒精含有飲料税法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者
雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ
免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造
場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒精又ハ酒精含有飲料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ(三八年勅令第四號改正)

第六條ノ二 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受タヘシ(同上ヲ以テ追加)

第七條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ(四一年勅令第三九號追加)

第八條 酒精及酒精含有飲料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場内ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製

造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 酒精及酒精含有飲料稅法第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量及其ノ製成ノ日
- 四 他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價格、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條 酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先
- 二 販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飲料製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒

精含有飲料、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢查スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ監督上必要ト認メルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ（三八年勅令第四號改正）

- 一 醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ
- 二 濾過、蒸溜又ハ調合ニ著手セムトスルトキ
- 三 原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
- 四 酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ
- 五 自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
- 六 製造場外ヨリ製造場内ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

七 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十六條 酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製造其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ(四二年勅令第三九號改正)

第十七條 收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

三 附 則

第十八條 本令施行前酒造稅法又ハ混成酒稅法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條 本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限り第四條第二項ヲ適用セス

附 則(明治三十八年一月勅令第四號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治四十一年三月勅令第三十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 麥酒稅法(明治三十四年三月
法律第十二號)

第一條 麥酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス

本法ニ於テ麥酒ト稱スルハ麥芽、「ホツプ」及水ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ(三八年法律第五號追加)

前項原料ノ外總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍、馬鈴薯、澱粉又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス(同上、四一年法律第二十號及大正九年法律第五八號改正)

第二條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 麥酒稅ハ麥酒一石ニ付十八圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス(同上、大正七年法律第八號及大正九年法律第五八號改正)

第三條ノ二 政府ハ其ノ年三月ヨリ翌二月迄ノ一年度間ノ製造石數千石以上ニ非サレハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘス(同上ヲ以テ追加)

麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其

ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル麥酒税ヲ課ス(同上)

第四條 麥酒税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス(同上ヲ以テ改正)

前條第二項ニ依ル麥酒税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス(同上ヲ以テ追加)

第五條 第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國税徴收法第四條ノ一ニ依リ麥酒税ヲ徴收スル場合ニ於テハ納税ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得(同上ヲ以テ改正)

第六條 麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒税ヲ課ス

第七條 災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ

消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十條 收税官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ依ル麥酒、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 免許ヲ受ケスシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ麥酒及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(四一年法律第二〇號改正)

第十二條 麥酒ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ麥酒税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條 麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキ八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキ八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ八十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及輕減、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十九條ノ二 第十二條乃至第十四條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上

引續キ麥酒ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ麥酒製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得（四年法律第二〇號追加、大正七年法律第八號改正）

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス（同上）

第二十條 麥酒製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ（同上ヲ以テ改正）

第二十一條ノ二 本法ヲ施行セザル地ニ於テ製造シタル麥酒ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第三條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス（同上ヲ以テ追加）

前項ノ麥酒及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス（同上）

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十四年一月ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以内ニ於テ製造場一

箇所毎ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

附 則(三八年一月法律第五號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(四一年三月法律第二〇號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第三條ノ二第二項ノ規定ヲ適用セス

非常特別稅法中麥酒稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則(大正七年三月法律第八號)

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ本法施行前ヨリ引續キ麥酒ヲ製造セサルモノニ付テハ第十九條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則(大正九年七月法律第一七號)

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●麥酒稅法施行規則(明治三十四年八月勅令 第百六十八號)

第一條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ(三八年勅令第五號ヲ以テ第二項削除)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

(三八年勅令第五號ヲ以テ追加)

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 麥酒稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ

提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 麥酒製造業者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得
前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ相續ノ場合ヲ除クノ外麥酒製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ麥酒製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ麥酒稅法第二

條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ(三八年勅令第五號改正)

第六條ノ二 麥酒製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ(同上追加)

第七條 麥酒製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ麥酒稅法第三條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ(四一年勅令第四〇號追加)

第八條 製造石數查定ハ濾過シタル時ニ於テス

第九條 麥酒釀造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量他ヨリ引取リタルモノニアリテハ引取ノ日及其ノ引取先

- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
 - 三 製造シタル麥酒ノ數量及其ノ製成ノ日
 - 四 他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先
小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス
- 第十二條** 麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 一 引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先
 - 二 販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先
小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス
- 第十三條** 收稅官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ
- 第十四條** 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲナスコトヲ得
- 第十五條** 左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ麥酒製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(三八年勅令第五號改正)
- 一 麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ

- 二 醱酵液ヲ他ノ容器ヘ移替ヘムトスルトキ
 - 三 麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ
 - 四 麥酒ノ殘滓等ヲ用キ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ
 - 五 麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ
 - 六 自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
 - 七 製造場外ヨリ製造場内ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ
 - 八 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ
- 第十六條** 麥酒稅法第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ麥酒製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ(四一年勅令第四號追加)
- 第十七條** 收稅官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附 則

第十八條 本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限り麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ

製造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

附 則(明治三八年一月勅令第五號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治四一年三月勅令第四〇號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●醬油稅則(明治二十一年六月勅令第四十七號)

第一條 醬油(溜ヲ併稱ス)ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ(三二年法律第二五號ヲ以テ改正、同三七年法律第七號ヲ以テ第二項削除)

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ(三二年法律第二五號、同三九年法律第一六號改正)

- 一 醬油 諸味一石ニ付 金一圓七十五錢
- 二 溜 製成一石ニ付 金一圓六十五錢

第三條 (三七年法律第七號ヲ以テ削除)

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但シ廢業スル者ハ其ノ際之ヲ納ムヘシ(三二年法律第二五號改正)

第一期 七月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額

第二期 十一月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第三期 翌年三月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出テ造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其ノ總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出テ造石數ノ査定ヲ受ケ其ノ造石稅ヲ納ムヘシ但シ其ノ醬油ヲ同業者ニ賣渡、讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出テ檢查ヲ受ケ置キ其ノ買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其ノ一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出テ檢查ヲ受クヘシ

第七條 醬油ヲ原料トシテ醬油ヲ製造スルトキハ原料醬油ニハ造石稅ヲ課セス(同上)

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコト

ヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其ノ製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡、貸渡、讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但シ第六條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其ノ造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ檢查ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢查ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若ハ其ノ他證據ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其ノ下戻ノ歩合ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條 (三九年法律第一六號ヲ以テ削除)

第十五條 (三十七年法律第七號ヲ以テ削除)

第十六條 (三十九年法律第一六號ヲ以テ削除)

第十七條 醬油製造人ノ製造場、倉庫其ノ他ノ場所、醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但シ當該官吏ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此ノ稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其ノ場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ當該官吏ハ其ノ證憑ヲ携帯スヘシ
第十九條 免許ヲ受ケス醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ造石數ニ應シ第二條ノ造石稅ヲ課ス(三十二年法律第二五號、同三十七年法律第七號改正)
前項ノ造石稅ハ其ノ際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第十條ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ(三十二年法律第二五號、同三十九年法律第一六號改正)

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條ヲ犯シタル者又ハ逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス(同上法律、同

三十七年法律第七號、同三十九年法律第一六號改正)

第二十二條 第六條ノ検査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二五號改正)

第二十三條 (三十七年法律第七號削除)

第二十四條 此ノ稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬、雇人ニシテ此ノ稅則ヲ犯シタルトキハ其ノ製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲、白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ稅則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此ノ稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此ノ稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附 則

第二十八條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅則ヲ施行セス但シ此ノ稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此ノ稅則ニ從フヘシ(三十二年法律第

二五號改正)

第二十九條 (三十七年法律第七號ヲ以テ削除)

附 則 (明治三十二年二月法律第二十五號)

此ノ法律ハ明治三十二年三月一日ヨリ施行シ同日以後査定ニ係ル醬油ニハ其ノ製造著手ノ時期ニ拘ラス此ノ法律ヲ適用ス

此ノ法律施行ノ際醬油製造營業ノ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ此ノ法律ニ依テ製造ヲ免許シタルモノト看做ス

此法律施行ノ際自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ明治三十二年三月二十日マテニ其ノ現在諸味石高ヲ記載シ政府ニ申告スヘシ但シ明治三十二年ニ限り第一條第二條ノ制限石數ハ此ノ法律施行後ニ於テ仕込ムモノノミヲ計算ス

附 則 (明治三十七年四月法律第七號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治三十九年三月法律第一六號)

醬油製造人カ本法施行前ニ買受ケタル鹽ヲ以テ仕込ミタル醬油ニ關シテハ本法施行後ト雖舊稅率ニ依リ造石稅ヲ課ス

改正稅率ニ依リ造石稅ヲ課セラルル醬油ニ付テハ非常特別稅法ニ依ル醬油稅ノ増徴ヲ爲サス

●醬油稅則施行規則（明治三十二年三月）
勅令第四十六號

第一條 醬油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署長ニ提出スヘシ（三八年勅令第六號改正、三九年法律第十六號ニ依リ但書自然消滅）

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署長ハ醬油製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ（同上ヲ以テ追加）

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署長ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 醬油稅則若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署長ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 醬油製造人ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面竝ニ醬油製造用容器ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)
前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ醬油製造人ノ居所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ、

第五條 醬油製造人ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニ非サレハ醬油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
稅務署長容器ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

第六條 醬油製造人ハ毎年見込仕込石數、見込查定石數及製造方法ヲ記シ前年十二月申ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ル者ハ其ノ旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スルコトヲ要セス
新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)
前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ之ヲ申告スヘシ

第七條 醬油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署長ニ申告スヘシ(三八年勅令第六號改正)

相續ノ場合ヲ除クノ外醬油製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造人ハ醬油稅則第一條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條ノ二 醬油製造人其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署長ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ(同上ヲ以テ追加)

第七條ノ三 醬油製造人其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ(同上)

第八條 醬油ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第九條 醬油ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル醬油ノ總量ニ就キ之ヲ查定スヘシ

前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ醬油又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ查定スヘシ

第十條 醬油ヲ醬油製造ノ原料ニ供セムトスルトキハ醬油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ製造場外ニ移サムトスルトキハ稅務署長ニ申告スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

第十一條 前條第一項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ賣渡、貸渡、讓渡又ハ自用シ若ハ前條第二項ノ申告ヲ爲サスシテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ檢定石數ニ依リ其ノ造石數ヲ查定スヘシ

第十二條 左ニ掲ケル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ醬油製造人ハ其ノ承認ヲ受クヘシ(三八年勅令第六號改正)

一 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
二 原料用醬油ヲ使用セムトスルトキ

三 諸味又ハ原料用醬油ノ容器ヲ變換セムトスルトキ
四 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十三條 造石數查定未濟ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ(三五年勅令第二五三號改正)

第十四條 醬油稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ(同上)

第十五條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ(同上)

第十六條 外國ニ輸出シタル醬油ノ造石稅下戻ヲ請求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ檢査濟證明書並輸入港稅關ノ陸揚免狀若ハ其ノ他ノ證憑書類ヲ當初ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

假置場ニ於テ製造シタル醬油ヲ外國ニ輸出シタル者前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ前項ノ書類ノ外製造場所轄稅務署ノ納稅濟證明書及假置場所轄稅關ノ製造證明書ヲ提出スヘシ(大正五年勅令第二三九號追加)

第十七條 醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管内ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル

第十七條ノ二 輸出醬油ノ造石稅下戻ノ場合ニ於ケル諸味造石數ノ算出ニ付テハ全國ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル但シ假置場ニ於テ製造シタル醬油ニ付テハ其ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ歩合ニ依ル(大正五年勅令第二三九號ニテ追加)

第十八條 溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數查定ノ時之ヲ檢査スヘシ

第十九條 醬油製造人ハ毎年一月三十一日限り前年中ニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ稅務署長ニ申告スヘシ(三五年勅令第二五號改正)

醬油製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ年一月一日ヨリ廢止ノ日ニ至ルマテニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其ノ際申告スヘシ

第二十條 醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂、醬油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十條ノ二 收稅官吏ハ醬油製造人ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス(三八年勅令第六號追加)

第二十一條 本令ニ於テ醬油製造人ト稱スルハ醬油製造ノ免許ヲ受ケタルモノヲ謂フ

附 則(明治三三年十一月勅令第二五三號)

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治三七年四月勅令第八八號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治三八年一月勅令第六號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正五年十二月勅令第二三九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●自家用醬油稅法(明治三十三年三月法律第四十三號)

第一條 自家用醬油(溜ヲ併稱ス)一箇年五石以下ヲ製造セムトスル者ハ本法ニ依リ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ
前項ニ依リ免許ヲ受ケタル製造高ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ同年内ニ於テハ製造高ノ變更ヲ許可セス

第二條 自家用醬油製造免許ハ一家一人ニ限ル

第三條 自家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ(三七

年法律第八號改正)

- | | | |
|-----|------|------|
| 第一種 | 一石未滿 | 金五十錢 |
| 第二種 | 二石未滿 | 金一圓 |
| 第三種 | 三石未滿 | 金二圓 |
| 第四種 | 四石未滿 | 金三圓 |
| 第五種 | 五石以下 | 金四圓 |

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年三月ヲ以テ納期トス但シ納期後免許ヲ

受クルトキハ即納トス

第五條 自家用醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルモノトス

第六條 當該官吏ハ自家用醬油製造者ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第七條 自家用醬油製造者其ノ製造シタル醬油ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用醬油ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 自家用醬油製造者免許制限ヲ超過シテ醬油ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ醬油税則第二條ノ造石税ヲ課ス
前項ノ造石税ハ即時之ヲ徵收ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十條 自家用醬油製造者ノ家族、雇人等ニシテ其ノ製造ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十一條 左ニ記載スル者ニハ本法ヲ適用セス

- 一 醬油製造營業人、醬油請賣人
- 二 料理店、飲食店、旅人宿營業人

三 前二號ノ者ト同居スル者

本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項各號ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依ル免許ヲ以テ醬油税則ニ依ル免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同税則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造税ハ之ヲ免除セス(三七年法律第八號改正)

第十二條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醬油税則ヲ適用セス

附 則

第十三條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニシテ明治三十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ製造シタル醬油ニシテ醬油税則ニ依リ査定ヲ受ケタルモノニ關シテハ其ノ造石税ヲ免除ス

第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分本法ヲ施行セス

附 則(明治三七年四月法律第八號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醬油税則ニ依リ自家用醬油製造ノ申告ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

●自家用醬油稅法施行規則(明治三十三年三月勅令第六十七號)

第一條 自家用醬油稅法第一條ニ依リ自家用トシテ醬油ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所、氏名、自家用醬油稅法第三條ノ種別及醬油製造方法ヲ記シ稅務署長ニ申請スヘシ(三十五年勅令第二三五號改正)

第二條 自家用醬油稅法第三條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ前年中ニ變更ノ申請書ヲ稅務署長ニ差出スヘシ(三十五年勅令第二五三號改正)

第三條 自家用醬油製造者其ノ居所、氏名又ハ製造方法ヲ變更シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ(同上)

第四條 自家用醬油稅法ニ依リ免許ヲ受ケタル者同法第十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ(三十五年勅令第二五三號及同三年勅令第八九號改正)

第五條 自家用醬油ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ
自家用醬油製造者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ財產管理人ヨ

リ其ノ旨稅務署長ニ申告スヘシ(三十五年勅令第二五三號改正)

附 則(明治三十五年十一月勅令第二五三號)

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治三十七年四月勅令第八九號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●砂糖消費税法(明治三十四年三月)
法律第十三號

第一條 内地消費ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水
ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス 大正五年法律第三八號改正)

第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條 消費税ノ割合左ノ如シ(四一年法律第一號、同四二年法律二〇號、同四三年法律第
三三號、同四四年法律第五七號改正)

一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 樽入黑糖 百斤ニ付 金 二 圓

乙 樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタル
モノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

丙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 金 二圓五十錢

第二種 砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 金 三 圓

砂糖消費税法

- 第三種 砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 金 七 圓
- 第四種 砂糖色相和蘭標本第二十一號未滿ノ砂糖百斤ニ付 金 八 圓
- 第五種 砂糖色相和蘭標本第二十一號以上ノ砂糖百斤ニ付 金 九 圓
- 第六種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ百斤ニ付 金 十 圓

二 糖蜜

- 第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜
- 甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ 百斤ニ付 金 三 圓
- 乙 其ノ他ノモノ

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付金九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

- 第二種 其ノ他ノ糖蜜
- 甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ 百斤ニ付 金 二 圓
- 乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 金 三 圓

三 糖水

百斤ニ付 金 八 圓

第四條 前條ノ消費税ハ製造場又ハ保税地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徴收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以内消費税ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得(大正五年法律第三八號改正)

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス(同上) 擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ消費税ヲ課セス(大正五年法律第三八號改正)

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ消費税ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得(同上) 第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月以内ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ直ニ其ノ消費税ヲ徴收ス但

シ天災其ノ他己ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス(同上)

第六條 第四條第一項但書、前條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス(同上)

第七條 第四條第一項但書、第五條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス(同上)

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅納付前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス(同上)

前項ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ其ノ移出先ニ移入セラレサルトキハ移入者ヨリ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他己ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

第八條 砂糖、蜜糖又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條ノ二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場トテ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス(四三年法律第三三號追加)

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ(同上)

第十條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(同上)

第十一條ノ一 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場又ハ保

税地域ヨリ引取ラレル砂糖及糖水ニハ消費税ヲ課セス（三五年法律第二一號、大正五年法律第三八號改正）

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以内ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費税ヲ徴收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス（三八年法律第二六號追加、大正五年法律第三八號改正）

第四條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス（大正五年法律第三八號改正）

第十一條ノ二 政府ノ承認ヲ受ケ飲食スヘカラサル處置ヲ施シ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラレル糖蜜ニハ消費税ヲ課セス（同上）

第十一條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト看做ス（四三年法律第三三號追加）

一 砂糖ニ加工ヲ爲シテ其ノ種別ヲ上昇シタルトキ

二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ増加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 政府ノ承認ヲ受ケ消費税ヲ課セラレタル砂糖ヲ以テ製造スル糖水ニ付テハ本法ヲ適用セス（大正五年法律第三八號改正）

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費税ヲ徴收ス但シ消費税六圓未満ナルトキハ罰金額ハ三十圓トス（同上）

一 第六條又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタルトキ

三 前二號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費税ヲ遁脱シ又ハ遁脱ヲ圖リタルトキ

第十三條ノ二 第八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ

科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル(同上)

第十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ三十圓以上ノ科料ニ處ス(四三年法律第三三號及大正五年法律第三八號改正)

第十五條 收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三十圓以上ノ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル(四三年法律第三三號及大正五年法律第三八號改正)

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス(大正五年法律第三八號改正)

第十八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス(四三年法律第

三三號改正)

第十七條ノ二 本法ニ於テ保税地域ト稱スルハ關税法ノ定ムル所ニ依ル(大正五年法律第三八號追加)

附 則

第十八條 本法ハ明治三十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ
前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

附 則(明治三十五年三月法律第二一號)

本法施行前ニ於テ消費稅ヲ課セラレタル砂糖及糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

附 則(明治四一年二月法律第一號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中砂糖消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則(明治四三年四月法律第三三號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治四四年四月法律第五七號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正五年四月法律第三八號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 砂糖消費税法施行規則(明治三十四年八月
勅令第一六九號)

第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條 製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ
第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セムトスルトキ亦同シ

第五條 第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水、其ノ原

料品、製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

第八條 收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條 砂糖消費税法第七條第二項ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスル者ハ砂糖消費税法第三條ノ種別、斤數、移出ノ日、移出先、移入者及移出先到達豫定日ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ(大正五年勅令第一一五號改正)

前項ノ申告アリタルトキハ取締上支障ナシト認ムル場合ニ限り移出ノ承認ヲ爲スヘシ

前項ノ承認ヲ爲シタル場合ニ於テ收税官吏必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得(大正三年勅令第三四號改正)

第九條ノ二 内地移入糖ハ砂糖消費税法第七條第二項ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ニ移入スヘシ(大正三年勅令第三四號ヲ以テ本條以下十一ヶ條追加)

第九條ノ三 移入場ノ指定ハ移入場主ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス

前項ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ倉庫ノ所在地、名稱、所有者ノ住所、氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル申請書ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ大藏

大臣ニ提出スヘシ

大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ移入場主ニ對シ内地移入糖ノ藏置ニ關シ條件ヲ指定シ又ハ收税官吏ノ職務執行ニ關シ相當ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ條件ニ從ハス又ハ設備ヲ爲ササルトキハ移入場ノ指定ヲ取消シ又ハ内地移入糖ノ移入ヲ停止スルコトヲ得

第九條ノ四 内地移入糖ヲ積載シタル船舶移入地ニ到達シタルトキハ船長ハ到達ノ時ヨリ二十四時間以内ニ其ノ旨移入地所轄稅務署ニ申告シ且當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出スヘシ

第九條ノ五 移入地ニ到達シタル内地移入糖ハ收税官吏ノ指揮ニ從ヒ積卸ヲ爲シ移入場ニ庫入スヘシ

第九條ノ六 移入場庫入前内地移入糖ニ付砂糖消費税法第十一條ノ一第一項ニ依ル原料引取ノ申告ヲ爲シ移入地所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ移入場ニ庫入ヲ爲サスシテ直ニ之ヲ砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造場ニ引取ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ移入場ニ庫入アリタルモノト看做シ引取ノ承認ヲ爲シタルトキヲ以テ移入場ヨリ引取リタルモノト見做ス

第九條ノ七

内地移入糖ノ移入者ハ當該官廳ノ下付シタル移出承認書ノ回付ヲ受ケ置

第九條ノ八

内地移入糖ヲ船積シタル後移入者ニ於テ其ノ移入地ヲ變更セムトスルト

第九條ノ九

内地移入糖ヲ船積シタル後移入地到達前ニ於テ内地移入糖ノ積換ヲ爲サ

ムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄稅務署ニ申告シ當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第九條ノ十

船積シタル内地移入糖天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ船長ハ直ニ最寄稅務署ニ其ノ事實ヲ申告シ證明書ノ下付ヲ受クヘシ（大正五年勅令第一一五號改正）

第九條ノ十一

移入場ニ於ケル内地移入糖ノ藏置ニ關シテハ收稅官吏ノ指揮ニ從フヘシ

前項ノ證明書又ハ當該官廳ノ下付シタル亡失證明書ハ第九條ノ四ノ規定ニ依ル積載明細書ノ提出ト同時ニ移入地所轄稅務署ニ之ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ（同上）

第九條ノ十二

所轄稅務署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移入場ニ於ケル藏置期間ヲ定スルコトヲ得

第十條

製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ引取ノ目的及砂糖消費税法第三條ノ種別、斤數ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ（大正三年勅令第三四號改正）

第十一條

砂糖消費税法第四條第一項但書、同法第五條第一項、同法第十一條ノ一第一項又ハ同法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ（大正五年勅令第一一五號改正）

第十二條

砂糖消費税法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際引取ノ時期並輸出先又ハ製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申告スヘシ（同上）

第十三條

砂糖消費税法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ニ付テハ第九條第三項ヲ準用ス（同上）

第十四條

砂糖消費税法第十一條ノ一第一項ニ依リ原料引取ノ承認ヲ請フ者アル

場合ニ於テ所轄稅務署ニ於テ必要ト認ムルトキハ毎回ノ取引斤數ヲ制限スルコトヲ得 大正三年勅令第三四號改正

第十一條ノ三 砂糖消費税法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者糖蜜ニ飲食スヘカラサル處置ヲ施サムトスルトキハ其ノ方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ（大正五年勅令第一一五號ヲ以テ本條以下四ヶ條追加）

第十一條ノ四 砂糖消費税法第十二條ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ豫メ糖水ノ製造方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署ハ糖水ノ原料タル砂糖ノ種別ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ五 砂糖消費税法第五條第一項、同法第七條第二項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取り又ハ移出シタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ引取人又ハ移入者ハ其ノ事實ヲ引取ノ場所又ハ移入地ヲ管轄スル稅務署ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所カ前項稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項申告ノ際之ヲ提出スヘシ前二項ノ規定ハ第九條ノ十ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十二條 第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費税法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提出スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ但シ豫メ納稅擔保ヲ提出シタルモノニ付テハ其ノ都度擔保額ノ指定ヲ要セス（三五年勅令第五一號改正、四三年勅令八〇號ヲ以テ但書追加）

第十三條 收稅官吏ハ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ限り自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得（大正一一年三月勅令第一七三號改正）

納稅義務者ハ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未満ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限り收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ（三七年勅令第一〇八號及大正一一年勅令第一七三號改正）

東京府管下、鹿兒島縣管下ノ島嶼及沖繩縣ニ於テハ前項斤數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得（三八年勅令第一七〇號追加）

第十四條 收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條 擔保物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル（三五年勅令第五一號、四三年勅令第八

號九牛勅令第五八四號改正)

一金錢

二國債

三工場財團

第十五條ノ二 擔保物價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル
(四三年勅令第八號追加)

第十五條ノ三 擔保トシテ金錢、無記名國債證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其
ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ登録公債ヲ提供セムトスルトキハ擔保ノ登録ヲ受ケ其ノ登録濟通知書ヲ
提出スヘシ乙種國債登録簿ニ登録シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其
ノ供託受領證ヲ提出スヘシ(大正九年勅令第五八四號追加)

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ
囑託スヘシ但シ臺灣ニ於ケル工場財團ヲ提供シタルトキハ胎權設定ノ手續ヲ爲スヘ
シ(四三年勅令第八號及同年勅令第二四號追加)

第十六條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシ

ムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ所轄稅務署ハ擔保提供
者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ
消費稅ヲ徵收ス(四三年勅令第八號追加)

第十七條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ稅關ハ砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキ
ハ引取者ヲシテ消費稅納付濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セ
シムルコトヲ要ス(三五年勅令第五一號及大正三年勅令第三四號改正)

第十八條 砂糖消費税法第五條第一項ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ付輸出ノ證明ヲ爲サムト
スルトキハ引取後六月内ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提供スヘシ但シ己ムコトヲ得サ
ル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケ
タル場合ニ限り第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得(大正五年勅令第百十五
號追加)

一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十八條ノ二 砂糖消費税法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取りタル砂糖、糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタル場合ニ於テ砂糖、糖蜜ヲ引取りタル場所ヲ管轄スル稅務署ト砂糖、糖水、酒精ノ製造場ヲ管轄スル稅務署ト異ナルトキハ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ砂糖、糖蜜ヲ引取りタル場所ヲ管轄スル稅務署ニ提出スヘシ(大正五年勅令第一一五號改正)

第十九條 砂糖消費税法第四條第二項、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ(三五年勅令第五一號、大正五年勅令第一一五號改正)

第二十條 前條ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、公賣財産ノ種類、金額公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ(四三年勅令第八號改正)

第二十一條 公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條 砂糖消費税法第四條第二項但書、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得(三五年勅令第五一號、大正五年勅令第一一五號改正)

第二十三條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取りタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖

又ハ糖蜜ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ(三五年勅令第五一號改正)

第二十四條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取りタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ検査ヲ受クヘシ(三五年勅令第五一號改正)

第二十五條 前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間内ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ(三五年勅令第五一號改正)

第二十五條ノ二 收稅官吏職務ノ爲内地移入糖ヲ積載スル船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ(大正三年勅令第三四號追加)

第二十五條ノ三 收稅官吏ハ内地移入糖ヲ積載スル船舶ニ就キ内地移入糖又ハ之ニ關スル帳簿書類等ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏必要ト認ムルトキハ内地移入糖ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得(同上)

第二十六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者又ハ砂糖消費税法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目及其ノ製造ノ日
- 四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、蜜水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱（四三年勅令第二二四號改正）

第二十七條

- 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條

收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者竝砂糖消費税法第八條ノ二

但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス（同上）

第二十八條ノ二

本令ニ於テ内地移入糖ト稱スルハ臺灣ヨリ移出シ内地又ハ樺太ニ移入スル砂糖、糖蜜、糖水ヲ謂フ（大正三年勅令第三四號追加）

第二十九條

本令中稅務署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ（三五年勅令第二五二號及大正三年勅令第三四號改正）

附 則

第三十條 砂糖消費税法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附 則（明治三十五年三月勅令第五十一號）

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附 則（明治三十五年十一月勅令第二百五十二號）

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（明治三十七年四月勅令第百八號）

本令ハ明治三十七年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治四十三年二月勅令第八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(明治四十三年五月勅令第二百二十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正三年三月勅令第三十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正五年四月勅令第一百五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正九年十二月勅令第五百八十四號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ効力ヲ有ス

附 則(大正十一年三月勅令第七十三號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●織物消費税法(明治四十三年三月法律第七號)

第一條 織物ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條 消費税ノ税率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ免除ス

一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物

二 製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條 消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付ス

ヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費税額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第五條 消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内消費税ノ徵收ヲ

猶豫ス

第六條 消費税ヲ納付シ又ハ消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者ハ其ノ織物ニ納税済證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納税済證ノ貼付ヲ受クルコトヲ得

第七條 左ニ掲クル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セスシテ織物ヲ引取ルコトヲ得

- 一 他ノ製造場ニ移出シ又ハ藏置場ニ藏置スル爲織物ヲ引取ルトキ
- 二 染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

- 三 一定ノ場所ニ於テ消費税ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條 消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費税ノ徵收ヲ爲サス

第九條 第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ

織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス

織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費税ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第十條 第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 織物製造者ハ同一ノ場所ニ於テ織物ノ販賣業又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得織物ノ製造場ト販賣場又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造場トテ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條 收税官吏ハ織物ノ製造場、販賣場又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入り織物、原料、織物ヲ原料トシテ製造シタル物品、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收税官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徴收ス但シ消費税四圓未満ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

一 第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

二 外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四 第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ

五 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一 第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三 命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ
四 收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ刑ノ減免及刑
法第四十八條第二項ノ例ヲ用キス

第二十條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者カ未
成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用
スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル
未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ノ
代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ
本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但
書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ヲ處罰ス

第二十二條 政府ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シ徵稅上必要ナル設
備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得(大正八年法

律第三三號追加、大正十一年法律第十七號改正)

附 則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス但シ同規定ニ依リ爲シタル處分
又ハ行爲ハ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

附 則(大正八年三月法律第三十三號)

本法ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十一年三月法律第十七號)

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ施行ス

● 織物消費税法施行規則 (明治四十三年三月 勅令第百八十五號)

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第四條 所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ織物製造者ニ織物製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、機械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第五條 織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ販賣場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 織物製造者期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 第二條若ハ前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第四條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡シタル者ハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ但

シ輸出ノ目的ヲ以テ製造セララル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ノ省略ヲ爲スコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ移出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其條件ニ從フニ非サレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ消費稅ヲ納付シタルコトノ證據ヲ具シ輸出港稅關ニ、其ノ郵便ニ依リ輸出シタル場合ニ於テハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際豫メ輸出港稅關ニ其ノ旨申告スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出スルモノハ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタル場合ニ於テ消費稅ノ免除ヲ得ムトスルトキハ其ノ織物又ハ

之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルコトノ證據ヲ具シ之ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ消費稅ノ免除ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條 織物製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル場合ニ於テハ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條 織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リ織物ヲ引取ラムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 織物消費稅法第九條第一項ニ依ル價格ノ申告ハ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 織物消費稅法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ織物ニ印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代ヘムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十七條 織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ其ノ價格及製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ相當印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ絲ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫着シ紙片ニ價格及住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニ

カケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十八條 消費稅ヲ納付シ又ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ織物又ハ織物ニ縫着シタル紙片ニ納稅濟

ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼付シ又ハ納稅濟ノ證印ヲ押捺スヘシ
前項ノ規定ニ依リ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケタル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ加工後更ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 日本銀行ノ本店、支店若ハ代理店ノ所在地外又ハ日本銀行ノ營業時間後ニ於テハ收稅官吏ハ消費稅金ノ領收ヲ爲スコトヲ得(大正一一年勅令第一七七號改正)

第二十條 擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル(大正九年勅令第五八五號改正)
金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正九年勅令第五八五號改正)

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニアリテハ尙記名國債證券ヲ供

託シ其ノ供託受領書ヲ提出スヘシ(同上追加)

第二十一條 (大正九年勅令第五八五號ヲ以テ削除)

第二十二條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及税金ニ充ツ(大正九年勅令第五八五號改正)

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十四條 織物製造者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル種類、數量及製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十五條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
 - 二 販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十六條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十七條 收稅官吏ハ織物ノ製造者、販賣者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第二十九條 織物消費稅法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ稅務署長ハ織物組合ニ對シ

徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
 前項ノ織物組合ニ對シテハ左ノ二期ニ分チ毎期間内ニ於テ其ノ取扱ヒタル織物中消
 費稅ヲ賦課シタル織物ノ課稅價額ノ千分ノ一ニ相當スル金額及其ノ點數每五百點ニ
 付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五百點未滿ノ
 端數アルトキハ之ヲ五百點トシテ計算ス(大正一一年勅令第五〇號改正)
 前期 其ノ年四月ヨリ同九月迄
 後期 其ノ年十月ヨリ翌年三月迄

前項ノ規定ニ依ル點數ノ計算方法ニ付テハ幅及長サノ長短ニ拘ラス一個又ハ一續ノ
 織物ニシテ之ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルモノヲ一點トス但シ
 數個又ハ數續ノ織物ヲ一括シ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クル場合ニ
 於テハ其ノ一括毎ニ之ヲ一點トス(同上追加)
 織物組合カ一集合査定場ニ於テ一年度間毎月少クトモ六回以上織物消費稅査定ノ爲
 査定場ノ開設ヲ爲シタル場合ニ於テ當該査定場ノ取扱ニ係ル織物ニ付第二項ノ規定
 ニ依リ計算シタル一年度ノ交付金額カ百圓ニ滿タサルトキハ該査定場ニ對スル後期
 交付金トシテ前期交付金ト合シテ百圓ニ滿ツル迄ノ金額ヲ交付ス(大正一一年勅令第

五〇號改正)

第三十條 前條ノ織物組合同條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一
 部ヲ交付セサルコトヲ得(大正八年勅令第四五號追加)

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 非常特別稅法施行規則ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做
 ス

附 則(大正八年三月勅令第四五號)

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正九年一二月勅令第五八五號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定
 ニ拘ラス仍其ノ効力ヲ有ス
 前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコト
 ヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

附 則(大正十一年三月勅令第五〇號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●石油消費税法

(明治四十一年三月法律第二十一號)

第一條 石油ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條 消費稅ハ石油一石ニ付金一圓ノ割合トス

第三條 外國ニ輸出スル石油ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除ス

消費稅ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條 消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ

第五條 消費稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内ノ期間ヲ以テ消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第六條 石油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ之ヲ貯藏場ニ出移スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第七條 消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取りタル石油ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ數量ニ相當スル石油ニ付テハ更ニ消費税ノ徴收ヲ爲サス

第八條 製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ數量ヲ政府ニ申告スヘシ

第九條 第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ルコトヲ得ス

第十條 石油製造者ハ第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ石油ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

第十一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ

第十二條 石油製造者ハ同一ノ場所ニ於テ石油ノ販賣業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得石油ノ製造場ト販賣場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 石油ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十四條 收税官吏ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り石油、原料、器具、器械、建

築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 收税官吏ハ運搬中ニ在ル石油ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徴收ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 政府ニ申告セスシテ石油ヲ製造シタルトキ

二 外國ニ輸出スル爲消費税ヲ免除セラレタル石油ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 第六條第一項ニ依リ移出シタル石油ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セス又ハ之ヲ消費シタルトキ

四 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十二條ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 石油ノ製造者又ハ販賣者石油ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ
 - 三 收税官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル
- 第十八條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス
- 第十九條** 石油ノ製造者又ハ販賣者カ未成年者若ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十條** 石油ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附 則

第二十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ石油ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第二十三條 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造又ハ輸入シタル石油ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ石油及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

●石油消費税法施行規則(明治四十一年三月)
勅令第四十一號

- 第一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第二條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得
- 第三條 所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ石油製造者ニ石油製造場ノ圖面若ハ製造用ノ器具、器械ノ目錄ヲ提出セシムルヲ得
- 第四條 石油製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第五條 石油製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第六條 第一條若ハ前條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第七條 石油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 石油製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第八條 石油製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 外國ニ輸出スル石油ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ其ノ石油ニ封印ヲ施シ、之ヲ護送シ又ハ消費税ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

消費税ノ免除ヲ得タル石油ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取リタル後六月以内ニ外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出セサルトキハ外國ニ輸出セラレサルモノト看做シ引取人ヨリ直ニ消費税ヲ徵收ス

第十條 消費税ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際其ノ旨輸出港稅關ニ申告スヘシ

前項ニ依リ輸出ヲ爲シタル者其ノ石油ニ付消費税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ輸出港稅關ニ出願シタルトキハ消費税ニ相當スル金額ヲ交付ス

第十一條 石油消費税法第六條ニ依リ石油ヲ移出セムトスル者ハ運搬線路及運搬先ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 第九條及前條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十三條 日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ限り收稅官吏ハ消費税金ノ領收ヲ爲スコトヲ得(大正十一年勅令第一八二號改正)

第十四條 擔保物ノ種類ハ金錢及國債ニ限ル(大正九年勅令第五八六號改正) 金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(同上)

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ(同上追加)

第十五條 (大正九年勅令第五八六號ヲ以テ削除)

第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費税納付済ニ至リタルトキ又ハ消費税免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費税ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充ツ

(同上改正)

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十八條

石油製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條

石油販賣者ハ少ナクトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル數量、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル數量、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條

本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ貯藏場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ

申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條

收稅官吏ハ石油ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項

ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條

本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル石油ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附 則

本令ハ石油消費税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石油消費税法第二十二條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附

則(大正九年十二月勅令第五百八十六號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ効力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

附 則(大正十一年三月勅令第七十二號)
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●賣藥稅法(明治三十八年五月法律第七十一號)

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥規則ニ依ル賣藥營業者ヲ謂フ(四三年法律第八號改正)

第一條ノ二 賣藥營業者ニハ藥劑一方毎ニ一年間製造高ノ定價總額ニ應シ毎年左ノ賣藥營業稅ヲ課ス(同上)

定價總額三百圓未滿ノモノ	金三圓
定價總額五百圓未滿ノモノ	金五圓
定價總額千圓未滿ノモノ	金七圓
定價總額二千圓未滿ノモノ	金九圓
定價總額三千圓未滿ノモノ	金十二圓
定價總額五千圓未滿ノモノ	金十七圓
定價總額一萬圓未滿ノモノ	金二十二圓
定價總額二萬圓未滿ノモノ	金三十二圓
定價總額三萬圓未滿ノモノ	金四十二圓

定價總額五萬圓未滿ノモノ 金五十七圓
 定價總額七萬圓未滿ノモノ 金七十二圓
 定價總額十萬圓未滿ノモノ 金八十七圓
 定價總額十萬圓以上ノモノ 金百一圓

前項ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年又ハ其ノ年免許ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ年製造高ノ豫算定價額ニ依ル(同上)

外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ外國ニ輸出セサル賣藥ニ準シ定メタル價額ヲ以テ定價ト看做ス(同上)

第一條ノ三 賣藥營業者ニ箇所以上ニ於テ營業スルトキハ營業場毎ニ前條ノ賣藥營業稅ヲ納ムヘシ(同上)

第一條ノ四 賣藥營業者ハ毎年一月十五日迄ニ課稅標準額ヲ所轄收稅官廳ニ申告スヘシ但シ其ノ年免許ヲ受ケタル者ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申告スヘシ(同上)

第一條ノ五 賣藥營業稅ハ年額ヲ二分シ一月及七月之ヲ徵收ス但シ納期限ヲ經過シテ免許ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該納期ニ納ムヘキ稅金ハ即納トス(同上)

賣藥營業者六月以前ニ廢業シ又ハ賣藥ノ發賣ヲ禁止セラレタルトキハ七月ニ納ムヘキ稅金ハ之ヲ免除ス(同上)

第一條ノ六 北海道及府縣ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ三以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ五以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得(四四年三月法律第四二號改正)

第二條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥印紙稅ヲ課ス(四三年法律第八號改正)
 定價一錢未滿ナルトキ又ハ一錢未滿ノ端數アルトキハ一錢未滿ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥印紙稅ヲ計算ス(同上)

第三條 賣藥印紙稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス(同上)
 第三條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ定價ヲ附記シ其ノ賣藥印紙稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シ印紙面ヨリ他所ニカケ消印スヘシ(同上)

第四條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ賣藥ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第五條 賣藥營業者定價ヲ増加シテ賣藥ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ定價ヲ改記シ其

ノ賣藥印紙税ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ(同上)

第六條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ帳簿ヲ調製シ賣藥ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第七條 賣藥營業者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條 收税官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ發見スルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ、貼用印紙ニ消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコトヲ得

前項ノ費用徴收ニハ國稅徴收法ノ規定ヲ準用ス

第九條 收税官吏ハ賣藥ノ所在ニ就キ検査ヲ爲シ又ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ帳簿書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第十條 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ賣藥印紙税ヲ免除ス(同上)

前項ノ賣藥ニ付テハ第二條乃至第五條、第七條、第八條及第十一條乃至第十三條ヲ適用セス

第十一條 賣藥營業者ニシテ所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙ト新印紙トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣藥營業者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ販賣シ又ハ附記定價以上ニ賣藥ヲ販賣シタルトキハ脱稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脱稅高二十倍ノ金額五圓ニ達セサルトキハ五圓ノ科料ニ處ス(同上)

賣藥營業者定價ヲ附記セサル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脱稅ヲ爲シタル者ハ前項ニ依リテ處斷ス(同上)

第十三條 賣藥營業者第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(同上)

賣藥請賣者又ハ行商者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰

金又ハ科料ニ處ス(同上)

第十三條ノ二 第一條ノ四ノ申告ヲ爲サス又ハ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ一圓以上ノ科料ニ處ス因リテ賣藥營業稅ヲ逋脱シタル者ハ脱稅金額三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス(同上)

第十四條 賣藥營業者、請賣者又ハ行商者賣藥ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(同上)

第十五條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル(同上)

第十六條 本法ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十七條 賣藥營業者、請賣者及行商者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ノ規定ニ依リ賣藥營業者、請賣者及行商者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス

但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十九條 賣藥類似品及其ノ營業者、請賣者及行商者ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス

第二十條 本法ニ依リ賣藥營業稅ヲ課セラレタル者ニハ營業稅ヲ課セス(同上)

賣藥印紙稅規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際販賣ノ爲賣藥類似品ヲ所持スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本法第三條及第四條ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

附 則(明治四十三年法律第八號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

賣藥規則中及非常特別稅法中賣藥營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則(明治四十四年三月法律第四十二號)

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

●賣藥稅法施行規則(明治三十八年五月勅令第五百十五號)

- 第一條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ
- 第二條 賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 一 製造又ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製造又ハ輸入ノ日
 - 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先
 - 三 買入レタル印紙ノ數量、金額及其ノ買入先
 - 四 貼用シタル印紙ノ數量、金額
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス
- 第三條 賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 一 引取りタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取先
 - 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額及引渡ノ日
- 第四條 收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作り違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署名捺印スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキ又

ハ之ヲ拒ミタルトキハ收税官吏ハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五條 賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥印紙税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ收税官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ(四三年勅令第四四五號改正)

前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收税官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第六條 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ輸出セサルトキハ承認ハ其ノ効力ヲ失フ

前條第一項ノ承認カ効力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ收税官吏ノ承認ヲ受ケ賣藥ヲ廢棄スルトキハ印紙ノ貼用ヲ要セス(同上)

前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ依ル

第六條ノ二 第五條ノ藏置又ハ搬中賣藥ノ裝置ノ變更ヲ要スルニ至リタルトキハ收税官吏ノ承認ヲ受ケ製造場へ戻入スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五條第三項ノ規定

ヲ準用ス(同上)

前項ノ賣藥ヲ輸出セムトスルトキハ更ニ第五條ノ承認ヲ受クヘシ(同上)

第七條 賣藥税法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受クヘキ印紙各種枚數ヲ記載シタル書面ニ其ノ賣藥ヲ添へ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス

- 一 既貼印紙ノ金額一口十圓未滿ナルトキ
- 二 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ
- 三 既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ

第九條 印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 既貼印紙 二十圓未滿一圓ニ付 新印紙 八十錢
- 二 既貼印紙 二十圓以上一圓ニ付 新印紙 八十五錢

第十條 所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交付スヘシ

第十一條 藥品ヲ用キ又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當ス

ル效驗アリトシテ發賣スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 疾病ヲ豫防スルコト

二 治病ニ效驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ増進スルコト

三 皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト

四 疥癬其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト

第十二條 前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ其ノ物品ノ製造方法及効能ヲ記載シ見本ヲ添へ所轄稅務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事

項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條 本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業者ニ準用ス

附 則

本令ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附

則(明治四十三年十二月勅令第四百四十五號)

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●印紙税法(明治三十二年三月)
法律第五十四號

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シタル價格ノ單位又ハ其ノ他記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ(四

十年法律第二七號追加)

金高二百圓以下ノモノ
金高千圓以下ノモノ
金高五千圓以下ノモノ
金高一萬圓以下ノモノ

印紙稅 三 錢(四二年法律第四二號追加)
印紙稅 五 錢
印紙稅 十 錢
印紙稅 二十 錢

印紙税法

金高二萬圓以下ノモノ	印紙税	五十錢
金高三萬圓以下ノモノ	印紙税	一圓
金高五萬圓以下ノモノ	印紙税	二圓
金高十萬圓以下ノモノ	印紙税	四圓
金高十萬圓ヲ超ユルモノ	印紙税	七圓

第四條

左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込

ニ對シテ下ニ定ムル所ノ印紙税ヲ納ムヘシ(四十年法律第二十七號、四三年同第十四號改正)

一 委任狀	印紙税	二錢
一 爲替手形	印紙税	二錢
一 銀行預金證書	印紙税	三錢(三四年法律第十六號追加)
一 船荷證券	印紙税	三錢
一 運送貨物引換證	印紙税	三錢
一 倉荷預證券	印紙税	三錢
一 倉荷質入證券	印紙税	三錢
一 保險證券	印紙税	三錢

一 株券	印紙税	三錢
一 債券	印紙税	三錢
一 株式申込證	印紙税	三錢
一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書	印紙税	三錢
一 使用貸借、質貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書	印紙税	三錢
一 信託行爲ニ關スル證書	印紙税	三錢(大正十一年法律第四七號追加)
一 定款及組合契約書	印紙税	三錢
一 權利ノ變更ニ關スル證書	印紙税	三錢
一 追認承認ニ關スル證書	印紙税	三錢
一 物品切手	印紙税	三錢
一 賣買仕切書	印紙税	三錢
一 送狀	印紙税	三錢

- 一 受取書 印紙税 三 錢
 - 一 金高記載ナキ證書 印紙税 三 錢
 - 一 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙税 三 錢
 - 一通帳 印紙税 三 錢
 - 一 判取帳 印紙税 二十五錢
- 第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
 - 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
 - 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
 - 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
 - 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
 - 一 小切手
 - 一 金高五圓未滿ノ爲替手形、約束手形

- 一 金高一圓未滿ノ物品切手、四三年法律第十四號追加)
- 一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀 (四四年法律第四一號改正)

- 一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書 (同上)
- 一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書 (同上)
- 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
- 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
- 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載
- 一 手形ノ引受、保證
- 一 手形及證券ノ拒絶證書
- 一 手形及證券ノ複本、謄本

第六條 印紙税ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙税額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ税印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得 (三四年法律第十六號改正)

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高二相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ税印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス（四三年法律第十四號改正）

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

附 則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ税金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

附 則 明治四十年三月法律第二十七號

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中約束手形及小切手ノ印紙稅ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 明治四十三年三月法律第十四號

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 明治四十四年三月法律第四十一號

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 大正十一年四月法律第四十七號

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●取引所税法(大正三年三月法
律第二十三號)

第一條 取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ割合ニ依リ取引所營業稅ヲ課ス

第二條 取引所ハ毎月ノ賣買手數料收入金額ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ但シ廢

業ノトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標

準額ヲ決定ス

第三條 取引所營業稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ納付
スヘシ

第四條 會員組織ノ取引所ニハ取引所營業稅ヲ課セス

第五條 取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決濟ヲ爲シ得ルモノニハ

其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ稅率ニ依リ取引稅ヲ課ス(大正一一年法律第六一號改正)

第一種 地方債證券又ハ社債券ノ賣買取引

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬

スルモノ

萬分ノ〇・六

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ一

第二種 有價證券ノ賣買取引

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ

萬分ノ一・五

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ二・五

第三種 商品ノ賣買取引

萬分ノ二・五

賣買取引ヲ解除スルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス(同上)

第六條 削除(大正一一年法律第六一號ヲ以テ削除)

第七條 國債證券ノ賣買取引ニハ取引税ヲ課モス、同上改正)

第八條 取引所ノ取引員又ハ會員ハ取引税ヲ課セラルヘキ毎月分ノ賣買取引ノ賣買各約定金高ヲ種別及其ノ區分毎ニ記載シタル申告書ヲ取引所ヲ經テ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ(同上)

取引所ハ前項ノ申告書ヲ調査シ其ノ當否ニ付意見ヲ付シ前項ノ期間内ニ之ヲ政府ニ提出スヘシ(同上)

前項ノ規定ニヨリ取引所ヲシテ申告書ノ調査ヲ爲サシムル爲取引員又ハ會員ハ第一

項ノ期日前相當ノ期間内ニ申告書ヲ取引所ニ送付スヘシ(同上)

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告高ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス(同上)

第九條 取引所ノ取引員又ハ會員ハ毎月分ノ税金ヲ取引所ヲ經テ翌月末日迄ニ政府ニ納付スヘシ(同上)

第十條 政府ハ取引税ノ納税告知書ヲ取引所ニ交付シ取引所ハ之ヲ其ノ取引員又ハ會員ニ送達スヘシ此ノ場合ニ於テハ取引所ニ交付シタル時ヲ以テ其ノ取引員又ハ會員ニ送達アリタルモノト看做ス(同上)

取引所ハ其ノ取引員又ハ會員ノ納付スヘキ税金ヲ取纏メ前條ノ納期內ニ之ヲ政府ニ送付スヘシ(同上)

取引所前項ノ規定ニ依リ取纏メタル税金ヲ送付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ取引所ヨリ之ヲ徵收ス

第十一條 取引所ノ取引員又ハ會員ハ廢業脱退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ課税標準額ノ申告及取引税ノ納付ハ前三條ノ期限ニ拘ラス直ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ規定ハ取引所ノ廢業シタル場合ニ於テ取引税ニ付之ヲ準用ス

第十二條 取引所ハ其ノ取引員又ハ會員ノ取引税ノ納付ニ付保證ノ責ニ任ス取引所ノ取引員又ハ會員納期內ニ取引税ヲ納付セサルトキハ政府ハ取引所ヨリ之ヲ徴收スルコトヲ得(同上)

第十三條 取引所ハ賣買手數料及賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
取引所ノ取引員又ハ會員ハ賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ(同上)

第十四條 收税官吏ハ取引所、取引所ノ取引員又ハ會員ニ就キ其ノ賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(同上)

第十五條 取引所第二條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脱税シタルトキハ脱税高三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス

第十六條 取引所ノ取引員又ハ會員第八條又ハ第十一條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脱税シタルトキハ脱税高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス(同上)

第十七條 取引所法第二十五條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ取引税ニ關シテハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲シテ脱税シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

前項ノ場合ニ於テハ委託者ニ對シ約定金高トシテ計算シタル金額ヲ以テ賣買各約定金高トス(同上)

第十七條ノ二 取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ第五條ニ規定スル賣買取引ニ該當セサルモノニ付差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シタルトキハ取引物件ノ種別ニ從ヒ其ノ最高税率ノ取引税ヲ課セラルヘキ賣買取引ヲ爲シテ脱税シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス(同上追加)

前項ノ場合ニ於ケル税額ハ賣買各約定金高ニ依リ計算ス(同上追加)

第十八條 取引所ノ取引員又ハ會員ノ爲シタル第八條又ハ第十一條ノ申告不當ナル場合ニ於テ取引所之ヲ正當ナル申告トシテ政府ニ提出シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脱税スルニ致ラシメタルトキハ脱税高五倍ニ相當ス

ル罰金ニ處ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス(同上改正)

第十九條 取引所又ハ取引所ノ取引員若ハ會員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス(同七)

一 取引所第八條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ申告書ニ意見ヲ附セス又ハ申告書ノ提出ヲ怠リタルトキ

二 賣買手数料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿ヲ調製セス、其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リタルトキ又ハ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキ

三 收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第二十條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第二十一條 取引所ノ取引員又ハ會員ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ取引員又ハ會員ヲ處罰ス

第二十二條 北海道府縣、市町村及北海道、沖繩縣ノ區ハ取引所營業稅ニ對シ本稅百分ノ十以内ノ附加稅ヲ課スルノ外取引所ノ業務ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコ

トヲ得ス

附 則

本法ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ規定ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

本法施行前ノ賣買取引ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依リ取引稅ヲ徵收ス

本法施行前ニ爲シタル賣買取引ニ係ル賣買手数料ニシテ本法施行後ニ收入スルモノハ

取引所營業稅ノ課稅標準額ニ算入セス

明治三十九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

附 則(大正十一年四月法律第六十一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年八月勅令第三八九號ヲ以テ同年九月一日

ヨリ施行ノ旨ヲ定ム)

本法施行前ニ爲シタル取引所ノ賣買取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例

ニ依ル

● 取引所税法施行規則 (大正三年七月六日
大藏省令第十三號)

第一條 取引所設立ノ免許ヲ受ケタルトキハ定款及業務規程ヲ添へ免許ノ年月日ヲ十日以内ニ所轄稅務署ニ届出ツヘシ定款若ハ業務規程變更ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ變更ヲ命セラレタルトキ亦同シ(大正一一年大藏省令第五一號改正)

取引所免許繼續ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ届出ツヘシ
第二條 取引所開業シタルトキハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ廢業シタルトキ亦同シ

第三條 取引所ハ取引所税法第二條ニ依ル取引所營業稅課稅標準額申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條 一 支所ヲ設ケル取引所ニ在リテハ前三條ニ依ル届出又ハ申告ハ本支所各別ニ其ノ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ(大正一一年大藏省令第五一號追加)

第五條 取引所ノ取引員タル免許ヲ受ケタル者又ハ取引所ノ會員ト爲リタル者ハ其ノ住所、氏名又ハ名稱、營業所、所屬取引所及免許ヲ受ケ又ハ會員ト爲リタル年月日ヲ直ニ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ届出ツヘシ(大正一一年大藏省令第五一號改正)

取引所ノ取引員又ハ會員カ廢業、脱退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨直ニ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ申告スヘシ但シ死亡又ハ解散シタルトキハ所屬取引所ヨリ其ノ申告ヲ爲スヘシ(同上)

第五條 取引所税法第八條ニ依ル取引稅課稅標準額申告書ハ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ提出スヘシ(同上)

附 則

本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ開業セル取引所及現ニ仲買人又ハ會員タル者ハ本令施行後二十日以内ニ第一條又ハ第四條ノ届出ヲ爲スヘシ

附 則

本令ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス(大正十一年八月大藏省令第五一號)

本令施行前免許ヲ受ケタル取引所ニシテ取引所令附則第三項ノ規定ニ依リ業務規定ノ認可ヲ受ケタルトキハ認可後五日以内ニ業務規定ヲ添へ所轄稅務署ニ之ヲ届出ツヘシ本令施行前所轄稅務署ニ爲シタル仲買人ノ免許ニ關スル届出ハ本令ニ依リ爲シタル取引員ノ免許ニ關スル届出ト看做ス

●骨牌稅法(明治三十五年四月法律第四十四號)

第一條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所毎ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條 收稅官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス

第三條 骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ毎年製造所一箇所毎ニ免許料六十圓ヲ納ムヘシ

免許料納付ノ期限及方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 骨牌ニハ一組毎ニ二十錢ノ稅ヲ課ス

第五條 骨牌稅ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出

スコトヲ得サルノ装置ヲ爲スヘシ

第七條

貼用印紙ニハ印紙面ヨリ他所ニカケ消印ヲ爲スヘシ

第八條

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第九條

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ装置ヲ爲

ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十條

相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ装置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼

用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ税關又ハ保税倉庫ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條

收税官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上

必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條

外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ

付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌税ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第十三條

骨牌ノ製造ヲ爲ス者免許料ヲ納付セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之

ヲ徵收ス

第十四條

免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ

處シ免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ販賣ヲ爲シタル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處

ス

免許ヲ受スシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十五條

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ

脱稅高二十倍ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ脱稅高二十倍ノ金額十圓ニ達セサ

ルトキハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十六條

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ

五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ装置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼

用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ三圓以上百圓以下

ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ

詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條

收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又

ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以上ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條 本法ハ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

附 則

第二十二條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條 本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以内ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル

モノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十五條 本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條第五條ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ第六條ノ裝置及第七條ノ消印ヲ爲スヘシ

第二十六條 本法ヲ臺灣ニ施行スル迄又ハ臺灣ニ於テ本法ト同一若ハ之ヨリ重キ課稅ヲ爲ス迄ハ臺灣ヨリ本法施行地ニ骨牌ヲ移入スルコトヲ得ス
前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

●骨牌稅法施行規則(明治三十五年五月勅令第五百五十四號)

第一條 骨牌ヲ製造セムトスル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌製造者製造所ヲ増設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ
骨牌販賣者販賣所ヲ増設セムトスルトキ亦同シ
販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ
骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務所ニ申告スヘシ
骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新居所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三條 骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四條 骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第五條 免許料ハ毎年一月中ニ之ヲ納ムヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ初年ニ限り免許ヲ受ケタル月中ニ之ヲ納ムヘシ

骨牌製造者ハ所轄稅務署ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供シテ六回以下ノ分納ヲ申請スルコトヲ得但シ遅クトモ其ノ年十二月ヲ過クルコトヲ得ス

骨牌製造者免許ノ取消ヲ受ケタルトキハ其ノ納付スヘキ免許料ヲ即納スヘシ

第五條ノ二 骨牌ノ包裹ニ貼用スヘキ印紙ハ收入印紙トス (大正七年勅令第三五九號追加)

第六條 骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸入者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第七條 骨牌製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日
 - 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
 - 三 製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日
 - 四 貼用シタル印紙ノ金額
 - 五 他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第八條 骨牌販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額、引取ノ日引取先
- 二 貼用シタル印紙ノ金額
- 三 販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第九條 骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ

承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收税官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條

外國輸出ノ承認ヲ得タル骨牌ニシテ承認後六箇月以内ニ於テ輸出セサルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ骨牌製造者又ハ輸出者ハ直ニ包裹ヲ施シ之ニ印紙ヲ貼用シ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸出者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十一條

見本ニ供スヘキ骨牌ハ收税官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條

骨牌税法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得ムトスル者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十三條

骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條

收税官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他

ニ漏洩スルコトヲ得ス

附 則

第十五條

本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條

骨牌税法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第十七條

前條ノ申告ヲ爲シタル者骨牌税法施行ノ際同法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ之ニ第六條ノ記載ヲ爲スヘシ

第十八條

骨牌税法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ニ付テハ第九條及第十條ヲ準用ス

第十九條

明治三十五年ニ限り免許料ハ七月中ニ之ヲ納ムヘシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

附 則(大正七年九月勅令第三五九號)

本令ハ大正七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス但シ當分ノ内收入印紙ニ代ヘ骨牌印紙ヲ使用スルコトヲ得

●兌換銀行券發行稅納稅制(明治三十二年三月
法律第五十六號)

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納稅義務ヲ免除ス

本法納稅ノ義務ハ日本銀行力既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス

納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月二十八日限り納ムルモノトス

●日本銀行納稅ニ關スル取扱方ノ件(明治三十二年三月
大藏省令第九號)

本年法律第五十六號ニ依リ發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ハ毎日ノ現發行高ヨリ政府ノ特命ニ依リ一ヶ年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ貸付ケタル金額ヲ控除シタルモノヲ一箇月分加算シ其ノ月ノ日數ヲ以テ除シタルモノト

ス稅額ハ一箇月毎ニ算出シ其ノ六箇月分ヲ合計シテ半季分ノ稅額トス
 日本銀行ハ左記様式ニ準シ毎月平均發行額表ヲ調製シ翌月五日限り之ヲ所轄稅務署ニ
 報告スヘシ(三五年大藏省令第二八號改正)
 (様式略)

●狩獵法抄錄(大正七年四月法
 律第三十二號)

第三條 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃器、網、竊繩、
 筈、釣又ハ毘ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ欄、柵其ノ他圍障アル邸宅地
 域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス
 甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器
 ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス
 狩獵免狀ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九
 月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

(第四項略)

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ
 一等 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 五十圓
 二等 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 三十圓

狩獵法施行規則

三八七

三等 一等及二等以外ノ者

十五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ(大正一一年四月法律第七四號改正)

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●狩獵法施行規則(抄錄)(明治三十四年六月(農商務省令第七號))

第六條 狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼付シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ(大正八年八月農商務省令第二八號改正)

附 則

本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●間接國稅犯則者處法(明治三十三年三月(法律第六十七號))

第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得

第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條 收稅官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘシ前項ニ掲クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキ

間接國稅犯則者處分法

ハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條 收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目錄ヲ作ルヘシ但シ所有者又ハ所持者ハ其ノ差押目錄ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得(四一年法律第八號改正)

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス(同上)

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得(三七年法律第一號改正)

第八條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得、四一年法律第八號追加)

第九條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ記載シ立會

人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ

立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十一條 犯則事件ノ證憑集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス(三七年法律第一號改正)

稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證憑ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引繼クヘシ(同上)

同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ(同上)

第十二條 收稅官吏前各條ニ係リ、臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ着手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督局又ハ稅務署管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得